

# 「小春日和」

草

ゆるやかなカーブに傾ぐ車窓には憂いの残る空かもしれず

発車する電車の音も静かですホームで雀に餌あげてます

屋根の上をつとんつとんとゆくカラス 駅舎に人は背を丸め来る

悲しみを捨て難いならあのバスへ 81系統は海沿いをゆく

カロロンカロロンと風車 肩車されかざす手のさき

恋をしたみたいなんだとねえさんはぺんぺん草を耳元で回す

かん缶に思いをつめて蹴とばして靴まで飛んで青空である

お気楽なかばんをさげてひとり旅使いの鹿に手紙を書いて

新しいめがねをかけて駅に立つとほくも見えてあそこは雨だ

濡らさじと傘を分ければ我が肩に低き雨音さみしく思へ

雨粒が斜めに窓に張り付いて整形外科の看板の色

少年が曲がった骨の傘さして飄々と行く正しき姿勢

草笛は聚楽館の兵隊さん子供を掠うってほんとですか

